

2017年6月15日
日の丸交通株式会社
株式会社 ZMP

日の丸交通とZMP、自動走行タクシーの配車を見据えた 配車アプリ開発で協業を開始

ードライバー不足への対応と2020年東京五輪での訪日客の利便性向上を目指すー

日の丸交通株式会社(東京都文京区、代表取締役社長:富田 和孝、以下「日の丸交通」と)、株式会社 ZMP(東京都文京区、代表取締役社長:谷口 恒、以下「ZMP」)は、ZMP が開発を進める自動運転技術と、日の丸交通のタクシー事業の知見を組み合わせ、2020年の東京五輪での自動走行タクシーの実現に向けて協業を開始致しました。



自動走行タクシーのイメージ

ZMP は、自動走行タクシーとドライバーによるタクシー両方の配車に対応した配車アプリを開発し、2020年の東京五輪での自動走行タクシーのサービス実現を目指します。本アプリはまずドライバーによるタクシーを対象として開発を進め、早期の稼働開始を目指します。両社は、ドライバー不足への対応に加え、より便利なタクシーサービスの実現により、利用者増加を目指し、タクシー業界全体の発展を目指してまいります。

タクシー業界では、ドライバーの人手不足が課題となっており、2020年の東京五輪に向けて訪日客の増加も見込まれ、利便性向上が望まれております。政府も2020年の東京五輪での自動走行タクシーの実現を推進しております。一方、高齢化が進む中、過疎地においても、交通弱者の移動手段として自動走行タクシーの実現が望まれております。

自動運転技術のレベルには、あらゆる領域での自動走行が可能なレベル5と、限定された領域での自動走行が可能なレベル4があります。レベル4の段階においては、限定された領域(地域、環境)での運用となるため、タクシーサービスのためには、ドライバーによるタクシーと自動走行タクシーの連携が必要となります。自動走行タクシーの走行に適した限定されたルートについては自動走行タクシーを導入し、利用者のサポートが必要なルートについてはドライバーによるタクシーを配車することにより、タクシー会社はサービス向上とコスト削減が可能となると考えております。

両社は、ZMPの自動運転技術の開発で培った技術と、日の丸交通のタクシー事業のノウハウを組み合わせ、利用者の利便性向上と、安全運転支援・営業支援を目指してまいります。本アプリは、日の丸交通をはじめ、他のタクシー会社へも、広く参加を呼び掛けてまいりたいと考えております。

【本件に関するお問合せ】

日の丸交通株式会社 企画部 西川

TEL: 03-3815-4992 FAX: 03-3812-5660 E-Mail: h.nishikawa@hinomaru.tokyo

株式会社 ZMP 新規事業企画部 西村

TEL: 03-5802-6901 FAX: 03-5802-6908 E-Mail: nishimura@zmp.co.jp

【日の丸交通株式会社】 <https://hinomaru.tokyo/>

本社：東京都文京区 代表取締役社長： 富田 和孝

日の丸交通株式会社は、日の丸自動車株式会社として 1950 年に創業し、タクシー業務を主体として事業展開。1991 年に日の丸自動車のタクシー部門を独立させ、“腕よりも心で運転”をモットーに日の丸交通を設立。過去には初乗り短縮運賃 1 キロ 340 円タクシーの導入や業界初カーナビの搭載、現在は日本初の女性利用者向け、女性ドライバーを指定できる「なでしこタクシー」など新たなサービスを展開しております。また、安全面においても「健康なくして安全なし」をスローガンに、メタボ社員 ZERO プロジェクト、目の健康に配慮したドライバー用サンングラスの開発など、社員が安心・安全に働ける環境を積極的に提供しております。今後も、新たなサービスやお客様の安心・安全を追及してまいります。

【株式会社 ZMP】 <http://www.zmp.co.jp/>

本社：東京都文京区 代表取締役社長： 谷口 恒

「Robot of Everything 人が運転するあらゆる機械を自動化し、安全で、楽しく便利なライフスタイルを創造する」というミッションのもと、①ADAS(先進運転支援)、自動運転技術開発用プラットフォーム RoboCar[®]シリーズ及びセンサ・システムの開発・販売、②移動体メーカー(自動車、商用車、建設機械、農業機械、物流搬送機器、屋外作業機械等)向け自動運転等の開発支援、実験代行 RoboTest[®]、③物流支援ロボット CarriRo[®]の開発・販売を行っています。そのほか、ソニー(株)との合弁会社であるエアロセンス(株)や JVC ケンウッドとの合弁会社である(株)カートモ、ハーツユナイテッドグループとの合弁会社である(株)ZEG を通して、ZMP はこれからも世の中に感動を与える製品やサービスを提供してまいります。